

# 歴史がはじまった。 横浜からのクラシック音楽の

安政6年(1859)、東海道からも外れた寒村に港がつくられたとき、世界に向けて大きな扉が開かれた。

ここ「横浜」から、ありとあらゆる西洋文明が、まさに怒濤のように日本にもたらされたのです。

街を行き交う異人たちのきらびやかなドレスや洒落た小物。

横浜浮世絵と呼ばれた色鮮やかな錦絵に描かれた情景や、外国人居留地の劇場から聞こえてくるのは、

えもいわれぬ甘美な旋律。

日本のクラシック音楽の歴史は、まさに、ここ「横浜」からはじまったのです。

明治から百五十年。

いま、日本における西洋とは何かを、音楽からみつめなおす

「横濱音楽物語」が、フィリアホールではじまります。

2023年からはじまった、レクチャー講座とコンサートの両面で、「横濱」と「クラシック音楽」がおりなしてきた歴史に焦点を当てるシリーズ「横濱音楽物語」。現代日本人が普段耳にしている、西洋音楽由来の様々な音楽の歴史が、実は「横浜」の地に深く根差していることを改めて見直し、当時の歴史の実情に迫りながら「いま、日本における西洋とは何かを、音楽からみつめなおす」ことをこの企画では目指しています。様々なテーマによるレクチャー講座に加え、コンサートでは歴史的演奏会の再現を行うのみならず、特定のテーマに基づいたコンセプチュアルなプログラムで、ただ「聴く」だけではない形で、「横濱」と「音楽」の関係を紹介しています。

第1回「**再現！黎明期のクラシック演奏会 in 横浜**」では、講座で明治期の横浜山手を中心とする西洋音楽の流入と普及の流れをご紹介し、コンサートではかつて山手に所在した「ゲーテ座」で開催されたクラシックコンサートを、演奏順や構成を忠実に、優れた若手演奏家たちによって再現した公演を行いました。また第2回「**横浜ピアノ物語**」では標題の通り「ピアノ」と横浜の歴史に焦点を当て、2回の講座とコンサートを開催。講座では日本人に最も身近な西洋楽器の一つであるピアノの国内普及の歴史上における横浜の重要性を講座でご紹介し、またあの大作曲家プロコフィエフが横浜グランドホテルで行ったリサイタル・プログラムを、横浜在住の優れたピアニスト・阪田知樹の実演で再現するコンサートを行いました。そして第3回は「**ヨコハマ『うた』物語**」と題し、20世紀初頭の横浜における西洋音楽受容の歴史を紐解きました。日本音楽界の先駆者で「カルメンお美」と称された佐藤美子、横浜を拠点に多くの名曲を残した中田喜直の二人に焦点を当て、全2回の講座と森谷真理氏を迎えたコンサートを開催。「うた」を通じて横浜の地で音楽・文化・アートが交差した、当時の熱気溢れる諸相を多角的に紹介しました。

今回の第4回のテーマは「**横浜現代作曲家探訪**」。開港以来、西洋文化の玄関口として輝いた横浜。この街は、異国の響きを吸収し、独自の「音楽美」を模索した作曲家たちの情熱が交差する舞台でもありました。コンサートでは、20世紀の音楽史に鮮烈な足跡を刻んだ巨匠たちの軌跡を、ピアノとギターによる2部構成でたどります。ピアノは、ロシア音楽の真髄を受け継ぐ松田華音。横浜に逗留し、日本人作曲家に多大な影響と刺激を与えたロシアの作曲家アレクサンドル・チェレプニンの作品から、彼によって作曲家への道を開かれたともいえる直弟子、伊福部昭をはじめ、黛敏郎、武満徹など横浜に縁のある作曲家たちが目指した「音」を、鮮やかに描き出します。ギターは、日本が世界に誇る名手・鈴木大介。チェレプニンの日本での活動を支え、ともに日本の音楽界を改革しようとした盟友、小船幸次郎の作品をはじめ、日本の美を愛したタンスマン、武満徹など、ギターの繊細な音色にこめた現代作曲家たちの情熱に迫ります。終演後には、浦久俊彦と出演者とのアフタートークもお楽しみいただけます。

2回にわたるレクチャー講座では、まさに近代日本のクラシック音楽を「開国」したともいえるロシアの作曲家チェレプニンと、日本の美を愛し、西洋の模倣に汲々としていた日本人作曲家に「日本らしさ」を追求することを教えた当時のパリ楽壇の寵児タンスマンというふたりの作曲家を軸に、昭和初期の横浜を舞台に繰り広げられた日本の現代音楽誕生秘話を、豊富な歴史画像と、貴重な音源資料とともにお届けします。

## 横濱音楽物語 (全6回予定)

第1回 ◎ 再現！黎明期のクラシック演奏会 in 横浜

第2回 ◎ 横濱ピアノ物語

第3回 ◎ ヨコハマ「うた」物語

第4回 ◎ **横浜現代作曲家探訪**

第5回 ◎ 横浜オーケストラ物語

第6回 ◎ 横浜・青葉台・フィリアホール〜田園都市と音楽文化

第5回以降は、2027年以降に開催予定です。内容・タイトル等予告なく変更の可能性があります。各回の詳細は決定次第発表いたします。

A. チェレプニン



タンスマン



# 「横濱現代作曲家探訪」 レクチャー講座&コンサートの構成

## レクチャー講座①

2026

**10.17 (土) 14:00** (約90分)

### 漂泊の作曲家チェレプニンと日本の作曲家たち

ロシアの作曲家チェレプニンは、近代日本のクラシック音楽界を「開国」したともいえる重要な存在です。彼の直弟子、伊福部昭とのエピソードなど、若い才能との交流を描きます。



聴講申込受付：7月20日(月)11:00～ 定員に達し次第

## レクチャー講座②

2026

**11.22 (日) 14:00** (約90分)

### 日本の美を愛した作曲家タンスマンと日本の作曲家たち

ポーランド出身の作曲家タンスマンは、日本の美や伝統を絶賛し、西洋音楽を志す作曲家に「日本的なもの」を見直すよう示唆。のちの黛敏郎や武満徹の作風に大きな影響を与えました。



聴講申込受付：8月24日(月)11:00～ 定員に達し次第

レクチャー講座共通

**会場** フィリアホール・リハーサル室

**講師** 浦久俊彦 (文筆家・文化芸術プロデューサー)  
※両回とも生演奏の予定はありませんのでご了承ください

**定員** 40名 (未就学児入場不可) **聴講料** 無料

※レクチャー講座に登場する主な日本人作曲家たち  
伊福部昭、小船幸次郎、橋本国彦、黛敏郎、武満徹 ほか

**聴講申込** 事前申込制

フィリアホールチケットセンター窓口、またはお電話(☎045-982-9999)にて申込受付

## 浦久俊彦 講師・ナビゲーター/ 文筆家、文化芸術プロデューサー

URAHISA Toshihiko - Navigator

軽井沢本の森館長。一般財団法人欧州日本芸術財団代表理事、愛知県教育委員会教育アドバイザー。パリを拠点に文化芸術プロデューサーとして活躍。帰国後、三井住友海上しらかわホールのエグゼクティブ・ディレクターを経て、現在、浦久俊彦事務所代表。多彩なアーティストのオリジナル企画を手がけるほか、文化芸術ナビゲートとしても全国で活躍している。また、日本とヨーロッパの文化交流、教育・人材育成、地域文化の振興など、その活動は多岐にわたる。2021年3月、サラマンカホール音楽監督として企画した『ぎふ未来音楽展2020』が、サントリー芸術財団第20回佐治敬三賞を受賞した。著書に『138億年の音楽史』(講談社)、『フランツ・リストはなぜ女たちを失神させたのか』『悪魔と呼ばれたヴァイオリニスト』『ベートーヴェンと日本人』(以上、新潮社)、『オーケストラに未来はあるか(指揮者・山田和樹との共著)』(アルテスパブリッシング)、『リベラルアーツ〜「遊び」を極めた賢者になる』(集英社インターナショナル)など。最新刊は『音楽家は本を読む浦久俊彦の乱読道場』(アルテスパブリッシング)。公式ホームページ: <http://www.urahisa.com>

## トーク&コンサート

2026 **12.6 (日) 14:00** (約120分・休憩あり)

### ピアノとギターで巡る、横濱と日本人作曲家の系譜 松田華音(ピアノ)&鈴木大介(ギター)with 浦久俊彦

コンサートでは、ピアノの松田華音とギターの鈴木大介が、2回の講座でもご紹介する横浜にゆかりある巨匠たちの軌跡をたどります。チェレプニンから伊福部昭、武満徹まで、20世紀音楽の系譜をトークと贅沢な音楽で紐解く、横浜から世界へ繋がるっておきの時間！浦久俊彦のトークも交えて、音楽と言葉の両面で「知って感じる」コンサートです。

コンサートの詳細は  
表面をご覧ください。

「横浜」と「西洋」、音楽・文化・アートが交差する  
コンサート&レクチャー・シリーズ

ヨコハマ・オンガク・モノガタリ



全6回予定

4

## 「横濱現代作曲家探訪」



©shintsubo